

令和4年度 事業報告書

はじめに

新型コロナウイルス感染症の長期化により失業、ひきこもり、高齢者のフレイルや孤独死、ヤングケアラー、DV や児童虐待、新型コロナウイルス感染症の後遺症など、コロナ禍の影響を受けつなかりが希薄になり、課題はより潜在化しています。

このような状況の中、読社協では「子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり」を推進するため、「相談体制の充実」「第3次読谷村地域福祉活動計画の策定」「居場所づくりの支援」の3つを重点目標に掲げ事業を行いました。

新型コロナウイルスの影響による休業や失業でお困りの方に向けた「生活福祉資金特例貸付」の償還開始に向け、借受人の償還・猶予相談や「暮らしのお金に関する相談会」を開催し、借金債務、税金滞納、家計相談、就労相談など、相談者のお金に関する不安を少しでも減らすことや関係機関につなげるために、専門相談員(弁護士・就労コーディネーター・パーソナルサポートセンター家計相談員)や行政職員、社協職員によるワンストップ相談会を実施しました。また、多くの方々のご協力を得て、物価高騰の影響を受け経済的に厳しい世帯に向けての生活相談やフードバンク(食料品・日用品等)の配布を行い、生活困窮に陥っている方々への個別支援や日常生活への援助を行いました。

見守り安否確認の問い合わせや救急搬送などのケースが増え、行政や福祉関係機関・嘉手納警察署やニライ消防職員と情報交換の場を設け、顔の見える関係性を構築し連携強化に努めました。

子どもの居場所づくり支援事業を村より受託し、「子どもの居場所」について学ぶために子どもの居場所研修会や村内外の子どもの居場所支援を行っている企業、団体、個人と情報共有を図りました。公民館や県営団地、みらい児童館、社協などで軽食を配布し、事業の周知や地域・子どもたちとつながることができ、今後の事業展開について考える良い機会となりました。

地域福祉活動計画策定に向けて策定委員会を開催し、行政計画の「基本理念・基本目標」をもとに読谷村地域福祉活動計画の構成を行い重点的に取り組むべき「10の重点取り組み」について協議を重ね「第3次読谷村地域福祉活動計画」を策定しました。

以下、令和4年度に実施しました事業及び活動について報告します。

主要な事業の報告

1. 法人運営活動

円滑な会務の運営及び事業の執行を図るため、次のとおり理事会、評議員会及び監査を実施した。

(1) 会計・業務監査の実施

日付	令和4年6月1日
内容	令和3年度伝票監査(12月～3月) 令和3年度決算監査 ①令和3年度決算監査 ②令和3年度読谷村共同募金会会計監査

日付	令和4年10月25日
内容	令和4年度伝票監査（4月～7月）

（2）令和3年度 読谷村補助金交付団体監査

内容	令和3年度補助金交付団体監査 ①村社会福祉協議会補助金 ②総合福祉センター運営補助金 ※主管課である福祉課へ書類の提出
----	---

（3）理事会・評議員会の開催

■理事会（開催数5回）

第1回	日付	令和4年5月25日	【出席：10名】
	議案	第1号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任・解任委員会委員の補充選任について 第2号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について 第3号 読谷村社会福祉協議会が提供する福祉サービスに係る苦情への対応に関する第三者委員の選任について	
第2回	日付	令和4年6月10日	【出席：11名】
	議案	第4号 令和3年度 事業報告について 第5号 令和3年度 決算報告について 第6号 読谷村社会福祉協議会 評議員の補充候補者の選任について 第7号 読谷村社会福祉協議会 理事の補充候補者の選任について 第8号 読谷村社会福祉協議会 監事の補充候補者の選任について 第9号 第1回評議員会（定時評議員会）の開催について	
第3回	日付	令和4年11月8日	【出席：9名】
	議案	第10号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 居宅介護支援職員、通所介護職員、訪問介護職員の就業に関する規程の一部改正について 第11号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 嘱託職員就業規則の一部改正について 第12号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 通所介護事業所 嘱託職員就業規則の一部改正について 第13号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 居宅介護支援事業所 嘱託職員就業規則の一部改正について 第14号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 訪問介護事業所 嘱託職員就業規則の一部改正について 第15号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 臨時職員就業規則の一部改正について 第16号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 通所介護事業所 臨時職員就業規則の一部改正について 第17号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 通所介護事業所 パートタイム職員就業規則の一部改正について	

		第18号 令和4年度 資金収支補正予算（第1次）について 第19号 読谷村社会福祉協議会 理事の補充候補者の選任について 第20号 読谷村社会福祉協議会 評議員の補充候補者の選任について 第21号 令和4年度 第2回 評議員会の開催について
第4回	日付	令和5年2月20日 【出席：10名】
	議案	第22号 令和4年度 資金収支補正予算（第2次）について 第23号 読谷村社会福祉協議会 理事の補充候補者の選任について 第24号 読谷村社会福祉協議会 評議員の補充候補者の選任について 第25号 読谷村社会福祉協議会 評議員選任・解任委員の補充選任について 第26号 読谷村社会福祉協議会が提供する福祉サービスに係る苦情解決に関する規程の制定について 第27号 読谷村社会福祉協議会 虐待防止対策等検討委員会設置規程の制定について 第28号 読谷村社会福祉協議会 虐待防止対応規程の制定について 第29号 読谷村社会福祉協議会 研修受講・資格取得支援規程の制定について 第30号 令和4年度 第3回 評議員会の開催について
第5回	日付	令和5年3月22日 【出席：12名】
	議案	第31号 令和4年度 資金収支補正予算（第3次）について 第32号 読谷村社会福祉協議会 福祉基金の一部取り崩しについて 第33号 令和5年度 事業計画について 第34号 令和5年度 資金収支予算について 第35号 読谷村社会福祉協議会 規程の廃止に関する規程の制定について 第36号 読谷村社会福祉協議会 指定通所介護事業所 よみたん生き生き健康デイサービスセンター運営規程の全部改正について 第37号 令和4年度 第4回 評議員会の開催について

■ 評議員会（開催数4回）

第1回	日付	令和4年6月28日 【出席：21名】
	議案	第1号 令和3年度 事業報告について 第2号 令和3年度 決算報告について 第3号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 理事の選任について 第4号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 監事の選任について 第5号 読谷村社会福祉協議会が提供する福祉サービスに係る苦情への対応に関する第三者委員の選任について
第2回	日付	令和4年11月17日 【出席：24名】
	議案	第6号 令和4年度 資金収支補正予算（第1次）案について 第7号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 理事の補充選任について
第3回	日付	令和5年2月28日 【出席：20名】
	議案	第8号 令和4年度 資金収支補正予算（第2次）について 第9号 読谷村社会福祉協議会 理事の補充選任について

第4回	日付	令和5年3月30日	【出席：22名】
	議案	第10号 令和4年度 資金収支補正予算（第3次）について 第11号 読谷村社会福祉協議会福祉基金の一部取り崩しについて 第12号 令和5年度 事業計画について 第13号 令和5年度 資金収支予算について	

■ 評議員選任解任委員会（開催数4回）

第1回	日付	令和4年6月13日	【出席：5名】
	議案	第1号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任について	
第2回	日付	令和4年6月29日	【出席：4名】
	議案	第2号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任について	
第3回	日付	令和4年11月28日	【出席：5名】
	議案	第3号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任について	
第4回	日付	令和5年3月1日	【出席：5名】
	議案	第4号 社会福祉法人 読谷村社会福祉協議会 評議員選任について	

（4）第3次読谷村地域福祉活動計画の策定

地域福祉活動計画は、地域福祉を担う中核機関としての役割を持つ社会福祉協議会が作成する民間の計画であり「地域福祉の推進」を目指すための活動・行動計画として位置づけられ、地域住民や諸団体の参加や協力、協働による多様な福祉活動や福祉サービスの推進を図ることを目的としている。令和4年度は、読谷村地域福祉活動計画策定に向けて策定委員会を開催し、行政計画である第3次読谷村地域福祉計画の「基本理念・基本目標」をもとに読谷村地域福祉活動計画の構成を行い、読谷村の地域福祉課題より重点的に取り組むべき「10の重点取り組み」について協議を重ね、読谷村地域福祉活動計画の策定を行った。

第3次読谷村地域福祉活動計画の期間は令和5年度～令和9年度の5年間ですが、読谷村の「第4次読谷村地域福祉計画」策定の際には、「読谷村地域福祉計画・読谷村地域福祉活動計画」を一体的作成に向けて行政と協議を重ねていく。

第3回 策定委員会	日時	令和4年6月30日（木） 午後2時～4時
	場所	読谷村総合福祉センター2階ホール
	出席者	策定委員 13人（15人中）
	【内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 第1回・第2回策定委員会のふりかえり ② 計画策定のスケジュールと進捗について ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 読谷村の地域福祉の現状（読谷村の福祉課題のまとめ） ② 10の重点目標について

第4回 策定委員会	日 時	令和4年10月11日(火) 午後2時～午後4時
	場 所	読谷村総合福祉センター2階ホール
	出席者	策定委員12人(15人中)
		<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 第3次 読谷村地域福祉活動計画(案) <ul style="list-style-type: none"> ・目次説明(第1章～第3章)、アンケート調査の実施報告 ・読谷村の福祉課題のまとめ(10の福祉課題) ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 第3次 読谷村地域福祉活動計画(案) ② 第3次 読谷村地域福祉活動計画策定のプロセスとスケジュール(案)について ③ 計画の時期について(※策定委員と再確認)
第5回 策定委員会	日 時	令和5年2月17日(金) 午後2時～4時
	場 所	読谷村総合福祉センター2階ホール
	出席者	策定委員12人(15人中)
		【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 策定プロセスの振り返り ② 第4回策定委員会の振り返り ③ 第3次 読谷村地域福祉活動計画【概要版】について ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 第3次 読谷村地域福祉活動計画(案)の承認について

■アドバイザー業務・作成支援業務委託契約

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく(那覇市)

(5) 調査・広報啓発活動の推進

住民が地域で安心して暮らし続けるために必要な新しい福祉情報、社協情報を広報誌やホームページ等を積極的に活用し、社会福祉に対する理解と関心を深める事を目的に推進した。

- ①よみたん社協だより発行(年/6回:4月、6月、8月、10月、12月、2月)
- ②ホームページの活用(随時更新)
- ③公式LINEの活用(随時更新)

(6) 福祉関係団体活動の支援助成

■福祉関係団体等活動の支援助成(8団体 1,620,500円)

- ①読谷村身体障害者協会
- ②読谷村障がい児者を守る父母の会
- ③読谷村母子寡婦福祉会
- ④読谷村民生委員児童委員協議会連合会
- ⑤読谷村精神療養者家族会
- ⑥読谷村ボランティア団体連絡協議会
- ⑦読谷村赤十字奉仕団
- ⑧リーディングサービスともしび

※令和4年度(5団体 1,250,000円)

(7) 自主財源の確保

自治会及び行政事務連絡員のご協力や多くの村民のご理解を受け、財源の確保を行った。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
社協会費	2,420,000円	2,311,000円	2,367,175円
内訳	戸別会費：2,268,000円 賛助会費：68,000円 施設団体会費：74,000円 特別会費：10,000円	戸別会費：2,122,000円 賛助会費：124,000円 施設団体会費：65,000円 特別会費：0円	戸別会費：2,201,500円(表1) 賛助会費：91,000円(表2) 施設団体会費：64,675円(表3) 特別会費：10,000円(表4)

(表1) 自治会別戸別会費 (4,397件)

自治会	戸数	金額	自治会	戸数	金額	自治会	戸数	金額
喜名	291	145,500円	儀間	163	81,500円	大木	193	96,500円
親志	51	25,500円	宇座	241	120,500円	比謝町	15	7,500円
座喜味	406	203,000円	瀬名波	164	82,000円	牧原	44	22,000円
伊良皆	161	80,500円	長浜	210	105,000円	長田	28	14,000円
上地	20	10,000円	楚辺	533	266,500円	大添	92	46,000円
波平	395	197,500円	渡具知	175	87,500円	横田	103	51,500円
都屋	125	62,500円	比謝	74	37,000円	県営波平地 団地	40	20,000円
高志保	334	167,000円	大湾	135	67,500円	県営比謝地 団地	30	15,000円
渡慶次	212	106,000円	古堅	158	79,000円	その他	4	5,000円

※金額 1世帯500円

(表2) 賛助会員 (43名)

社協理事	社協監事	社協評議員	社協職員	民生委員	村民

※金額 1口1,000円

(表3) 施設団体会員 ◆入所施設4ヶ所、デイサービス事業所1ヶ所、福祉団体1ヶ所、
保育園・幼稚園12ヶ所、その他1ヶ所 合計19ヶ所

祥永会(読谷の里)	よみたん救護園	都屋の里	サービス付き高齢者向け住宅 まゆの里おおわん
喜名保育園	わかたけ保育園	わかたけ北保育園	のぐさ保育園
南古堅保育園	きりん保育園	咲く原保育園	ふれ愛保育園
たけのこ保育園	わらび保育園	ぽのぽの保育園	こぼと幼稚園
デイサービスぞきみ	読谷村身体障害者協会	おきなわ子ども 未来ネットワーク	

※金額 ①入所施設5,000円 ②通所施設、保育園・幼稚園、デイサービス事業所、福祉団体3,000円

(表4) 特別会員(1件) ◆城間源哲税理士事務所

(8) 寄 附 金

多くの村民のご芳志を受け、下記のとおり寄附金が寄せられた。

令和4年度 寄附金 91件 10,433,955円

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
誕生日記念	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
百歳記念	件数	0	1	0
	金額	0	50,000	0
カジマヤー	件数	5	6	1
	金額	330,000	510,000	50,000
米寿・トーカチ	件数	3	0	0
	金額	250,000	0	0
古希祝い (70歳)	件数	0	0	1
	金額	0	0	30,000
香典返し	件数	18	15	29
	金額	1,510,000	1,130,000	3,140,000
一般寄付	件数	37	51	48
	金額	2,080,238	5,835,832	6,404,955
指定寄附	件数	5	4	12
	金額	340,000 ※フードバンク事業へ	910,000 ※フードバンク事業へ	809,000 ※フードバンク事業へ
合 計	件数	68	77	91
	金額	4,510,238	8,435,832	10,433,955

2. 地域生活支援事業（村受託事業）

(1) 三町村（読谷村・嘉手納町・北谷町）手話奉仕員養成講座（入門編）

聴覚に障がいを持つ方の生活や福祉制度、社会環境についての理解を深めるとともに、日常生活に必要なコミュニケーションの確保と、聴覚障がい者の自立と社会参加の促進を図ることを目的に開催した。

- 期 間 令和4年5月2日～令和5年3月20日（毎週月曜日）全35回
- 場 所 読谷村総合福祉センター
- 講 師 中村成将（沖縄県聴覚障害者協会専任講師） 他
- 参加者 20名
- 修了者 8名（70%以上を出席した者）

(2) 声の情報発行事業

視覚障がい者や高齢者等、情報を得られにくい方の情報支援として、音訳ボランティアの協力を得て、広報誌、日本昔話、沖縄民謡を読み聞かせ録音し定期的に提供を行った。

①定期情報提供活動

○登録者 8名 ○利用者 8名

○内 容 ①村広報誌：年12回、 ②社協だより：年5回

②視覚障がい者の自宅訪問を通して新たな情報提供

○新型コロナワクチン接種について情報提供

○筋力低下の予防を目的とした「健康体操教室」を2回開催

(3) 福祉機器リサイクル事業

地域住民から寄贈された福祉機器（車椅子、ベッド、シャワーチェア、松葉杖等）を必要とする方へ無料で貸出を行った。

	車イス	ベッド	ベット用 テーブル	歩行器	杖	ポータブル トイレ	シャワー チェア	スロープ	合計
貸出 件数	141	3	0	7	10	14	9	1	165

(4)ペアレントトレーニング【導入編】

ペアレントトレーニングとは、「子どもの良いところを見つけて応援する事を基本にした子育て」をお手伝いするプログラムである。

子どもの行動を理解し適切な対応法を具体的に学び、実践していく事により、「より良い親子関係づくり」と子どもの適応行動を学ぶ事を目的に開催した。

	実施日	内容	申込者数	参加者数
1クール	7月17日	・子どもの行動の理解と、接し方のヒント ①特性に合った関わり方 ②良いところ探し ③子供への視点が変わると考え方、関わり方が変わる	49名	33名

(5) ペアレントトレーニング講座

ペアレントトレーニング導入編を受講した保護者の方を対象に、子どもの行動を理解し、良いところを見つけだし応援することを目的に、他の参加者や講師と情報を交換しながら楽しい子育てをお手伝いする講座を開催した。

■期 間 令和4年9月27日～令和5年2月14日（毎週火曜日）全9回

■場 所 読谷村総合福祉センター

■講 師 岡崎綾子（NPO法人ペア・さぽーと ペアトレ研究会）
岡崎瑞希

■参加者 7名

(6)ペアレントトレーニング【フォローアップ講座】

ペアレントトレーニングとは、「子どもの良いところを見つけて応援する事を基本にした子育て」をお手伝いするプログラムである。

気になる子どもの行動を理解し、適切な対応法を具体的に学び、実践していく事により、「より良い親子関係づくり」と子どもの適応行動を学ぶ。

ペアレントトレーニング講座修了後のフォローアップを行い、年齢や学年ごとに直面する困り事についてペアレントトレーニング講座内容を振り返り講師よりアドバイスをいただき今後の子育てに活かしていく。

	実施日	内容	参加者
第1回	10月4日	①学んだことを実践して『上手くいっている事』	6名
第2回	令和5年2月7日	②学んだことを実践して『少し対応が難しいところ』	5名

(7)ペアレントプログラム実施

(メイン講師) 中部療育医療センター 天久 親紀氏 (沖縄県障害児等療育支援事業)

(サブ講師) 沖縄県発達障害者支援センターがじゅま〜る

NO	日付	研修内容	参加人数
視察	6月24日	名護市ペアレントプログラム	4名
1	11月4日	第1回 現状把握表を書いてみよう!	12名
2	11月18日	第2回 行動で書いてみよう!	13名
3	12月9日	第3回 同じカテゴリーをみつけよう!	11名
4	12月23日	第4回 ギリギリセーフ!をみつけよう!	10名
5	令和5年 1月6日	第5回 ギリギリセーフ!をきわめよう!	10名
6	1月20日	第6回 ペアプロでみつけたことを確認する!	10名
7	4月21日	令和4年度 受講生フォローアップ	11名

3. 読谷村外出支援サービス事業 (村受託事業)

高齢者の生きがいと社会参加を促進する為、村内に居住する65歳以上の要援護高齢者及び身体障がい者等に対し、医療機関及び公共施設への移動支援、福祉の向上を図る事を目的とし、新型コロナウイルス感染対策を行い通常通りサービスを実施した。

【対象】

- ①65歳以上の要援護高齢者かつ本人が住民税非課税で、一般の交通機関を利用する事が困難な者
- ②重度の肢体障害者 (読谷村移動支援事業を利用していない者)

○利用実績

※その他(入院・退院)

利用状況	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用回数		14	10	26	13	9	7	13	13	9	9	8	9
実利用人数		10	8	8	7	5	6	7	7	9	7	7	7	88
目的	通院加療	14	9	26	13	8	4	13	13	9	8	8	9	134
	その他	0	1	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	6

【利用登録状況】

◇登録者数 18名 ◇新規登録者数 5名 ◇利用停止・取消 3名

【利用状況】

◇利用述べ回数 140回 (令和3年度: 84回)

◇実利用者数 14名 (令和3年度: 11名)

◇運行時間: 88時間08分 (令和3年度: 70時間03分)

4. ふれあいのまちづくり事業

ふれあいのまちづくり事業は地域住民のあらゆる福祉相談を受け各関係機関へ繋げると共に福祉のニーズを把握し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう推進した。

(1) 心配ごと相談所開設状況

誰もが身近に日常生活上のあらゆる悩みや心配ごとを気軽に相談できる窓口として社協窓口にて相談対応を実施。専門的な相談内容については、専門相談日を設け対応を行った。

①法律相談 8回 (令和4年1月～令和5年3月) / 相談件数 7件

②就労相談 (令和5年1月～3月毎週金曜日) / 相談件数 7件

(2) 日常生活自立支援事業 (福祉サービス利用援助事業) 県社協受託事業

日常生活自立支援事業とは、認知症高齢者、知的障害者等、精神障害者等のうち判断が十分でない方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助や金銭管理援助、通帳・印鑑等の書類預かりを行う事業である。

【令和4年度 日常生活自立支援事業利用状況】

①相談援助件数累計 (問い合わせ・相談援助件数)

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	不明・その他	合計
問い合わせ件数	0	0	0	0	0
初回相談別件数	2	1	3	0	6
相談援助件数	95	22	162	4	283
合計	97	23	165	4	289

②実利用者数：4名（精神障がい4名）

※新規契約者1名（精神障がい）／契約終了者1名（認知症高齢者）

※契約準備件数（2ヶ月後までの予定）1名（精神障がい）

③書類預かり件数（通帳・印鑑等の保管）4件

④生活支援員登録者数2名（うち活動者2名）

【専門員研修会】

◆専門員研修

令和4年7月 日常生活自立支援事業の適正な運営に向けて（2人）

令和4年9月 日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会Ⅰ（2人）

令和5年2月 社協における権利擁護推進に向けた情報交換会（2人）

◆職員研修

令和5年3月17日 障がい者金銭管理トレーニング 勉強会

金銭管理方法や収支状況整理等の相談支援対応について勉強会を行う

（3）緊急的における通帳等一時預かり事業

日常生活自立支援事業や成年後見制度等の活用がすぐには困難であり、その間に日常生活に支障をきたす場合に限り、制度利用開始となるまでの暫定的措置として通帳等の一時預かりを行う事業。

①利用者数：1名（認知症高齢者）／成年後見制度申立て準備中

（4）読谷村相談支援事業（村受託事業）

令和3年度より、読谷村相談支援事業（相談者相談支援事業）を福祉課より委託を受け、障害のある方や家族から相談を受け、様々な情報の提供や助言、計画相談員とともに障害福祉サービスの利用支援等を行った。

実人数	126名（男95・女31）	個別支援会議件数	参加62件・開催21件
延べ件数	1518件	専門部会件数	53件
新規	82件	延べ時間	912時間

訪問	面談	同行支援	電話相談	文章・メール	その他	
345件	114件	65件	917件	8件	1件	
自立支援施設連携	医療連携	役場連携	保健所連携	福祉事務所連携	他行政	その他連携
239件	159件	179件	52件	84件	26件	152件

主催講座

NO	日付	研修内容	参加人数
1	6月17日	新サポートノートえいぶるの記載方法について 講師：沖縄県発達障害者支援センターがじゅま～る 玉城氏、久貝氏、澤岬氏	11名
2	11月8日	読谷村障がい児支援者向けレク講座 講師：一般社団法人琉球スポーツサポート 代表理事 手登根 雄治 氏	12名
3	11月12日	お家でできる親子レク 講師：一般社団法人琉球スポーツサポート 代表理事 手登根 雄治 氏	7名
4	令和5年 3月9日	講座 性加害・性被害を防ぐために 講師：一般社団法人沖縄カウンセリングセンター 代表理事 松川 友樹 氏	26名

5. 福祉サービス苦情解決事業の実施

福祉サービス苦情解決事業は、利用者などからの苦情に対し、適切な解決に努めるために、職員を配置し、利用者の満足度を高めることや、利用者個人の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるよう支援した。

■福祉サービス苦情解決事業における職員配置

①苦情解決責任者（事務局長） ②苦情受付担当者（介護保険事業所・法人事務局）

■第三者委員の設置

2名（東恩納盛幸、宮城 和江）

（1）要望等・苦情受付件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
要望等件数	4件	0件	3件	3件
苦情受付件数	6件	0件	3件	2件

6. 福祉教育事業の推進

法人保育園、村立幼稚園、小学校、中学校を「読谷村福祉教育推進校（園）」として指定し、福祉教育を展開することにより、地域で暮らす多様な人々と出会い、お互いに理解を重ね、「ともに生きていく」地域社会づくりを目指すことを目的として実施した。

(1) 福祉教育推進校(園) 指定及び助成金交付

助成金額合計：454,000円

	福祉教育推進指定校(園)	助成金額
保育園4園	のぐさ・咲く原・南古堅・たけのこ(4園)	各30,000円
小学校5校	読谷(1校)	10,000円
	古堅・古堅南・渡慶次・喜名(4校)	各60,000円
中学校1校	読谷中学校(1校)	44,000円
高等学校1校	読谷(1校)	40,000円

※令和3年度 410,000円

(2) 「福祉教育体験」の相談支援

福祉教育体験学習を通して、生徒が障がいを持つ方に対する理解を深めることを目的に、学校側からの相談を受け、施設や講師と調整し支援を行った。

協力者：村身体障害者協会、民生委員児童委員、村内事業所、村内企業、村外障がい当事者(個人)

学校名	内容	講師等
古堅南小学校 (4年生)	■令和4年9月14日 ・読谷村のふくしについて	古堅南小学校体育館 講師：社協職員
古堅小学校 (4年生)	■令和4年3月11日 ・視覚障がい者について学ぶ (盲導犬ユーザー講話及び盲導犬ふれあい)	古堅小学校体育館 講師：桐原好枝氏
渡慶次小学校 (4年生)	■令和4年9月27日 ・読谷村のふくしについて	渡慶次小学校体育館 講師：社協職員
	■令和4年10月11日 ・視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	渡慶次小学校体育館 講師：比嘉直美氏
	■令和4年10月28日 ・高齢者について学ぶ(高齢者疑似体験)	渡慶次小学校校内 講師：社協職員
喜名小学校 (4年生)	■令和5年2月1日 ・読谷村のふくしについて	喜名小学校校内 講師：社協職員
読谷小学校 (4年生)	■令和4年9月29日 ・読谷村のふくしについて(オンライン)	ZOOM 講師：社協職員
	■令和4年10月18日 ・身体障がい者について学ぶ (電動車いすユーザー講話)	ZOOM 講師：宮城幸春氏 社協職員
	■令和4年12月13日 ・身体障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	読谷小学校体育館 講師：比嘉直美氏

読谷中学校	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年12月 ・ 村内の高齢者へ年賀メッセージ 給食サービス利用者へ配達ボランティアを通して配布 	読谷中学校全体
読谷高校 (JRC同好会)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年5月19日 ・ 視覚障がい者について学ぶ (点字体験及び講話) 	読谷高等学校校内 講師：津波古好子 氏
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年5月24日 ・ 視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話) 	読谷高等学校校内 講師：比嘉直美 氏
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年8月16日 ・ 超高齢者体験ゲーム 「コミュニティコーピング」 	読谷高等学校校内 講師：一般社団法人 虹のねっこ 大山望 氏
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年9月26日 ・ 農福連携体験事前学習 (目的説明、事業所・知的障がいについて説明) 	読谷高等学校校内 対応：うちなーからはーい 伊波 氏 ROYAL HOTEL 沖縄残波岬 森根 氏 県社協 ボランティアセンター 大城 氏
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年10月8日 ・ 農福連携体験 (農業体験、障がい者との交流) 	うちなーからはーい(畑・事業所) ROYAL HOTEL 沖縄残波岬
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5年1月18日 ・ 車いす体験 (車いすの基本操作と介助方法) 	読谷高等学校校内 講師：ケアプランきらめき 大城美智代 氏
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5年2月4日 ・ 車いす体験 (まなびフェスタにて読谷高校生が参加者へ 車いす体験を実施) 	文化センター中ホール 講師：読谷高校生 サポート：ケアプランきらめき 大城美智代 氏
読谷村民生委員児童 委員協議会連合会	古堅中学校区民生委員児童委員協議会 <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年7月5日 10時～ ・ 車いす体験、アイマスク体験 	読谷村総合福祉センター 講師：社協職員
	読谷中学校区民生委員児童委員協議会 <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年7月5日 14時～ ・ 車いす体験、アイマスク体験 	読谷村総合福祉センター 講師：社協職員
横田がんじゅう会	横田がんじゅう会ボランティア <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年7月12日 ・ 車いす体験 	横田自治会 講師：社協職員

(3) 第35回いもっ子WINTER SCHOOL (読谷村・嘉手納町社協合同事業)

読谷村と嘉手納町の中・高校生を対象に、地域の課題について学ぶと共にお互いの交流を深め、今後のボランティア活動の輪を広げることを目的として毎年実施している。

今回のいもっ子WINTER SCHOOLは、『レポート いい～場所 イバシヨ』をテーマに、自分の暮らす地域のお気に入り、大切、つながりを感じる場所やお店、紹介したい・自慢したい人を写真に撮り、自分だけの地域マップを作り、発表してもらい、自分たちの地域に興味・関心を持ってもらうきっかけづくりとして開催予定だったが、読谷村・嘉手納町共に中学・高校

と参加希望者がいなく開催することが出来なかった。

再度実施に向けて学校と調整を行い、『障がいてなんだろう』をテーマに障がいについて考えることを目的に案内を行ったが、中学・高校共に参加者がいなく2回目の企画も開催することが出来なかった。

初回企画		テーマ 「レポート いい場所 イバシヨ」	
日付	内容		参加者
令和5年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(趣旨説明、本日の流れ説明) ・地域を知るボードゲーム体験 ・Glideの使い方実践 		参加者 0名
令和5年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(前回のふりかえり、本日の流れ説明) ・フィールドワーク(お気に入り写真を撮ろう) 		
令和5年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(取り組みのふりかえり、本日の流れ説明) ・まとめ作業、中間発表 		
令和5年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(本日の流れ説明) ・報告会 プレゼンテーション 		
2回目企画		テーマ 「障がいてなんだろう」	
令和5年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(本日の流れ説明) ・コース別体験交流 ①コース 障害者就労支援事業所で障がいのある方の仕事を体験 ②コース 放課後等デイサービス事業所にて、障がいのある子どもと交流 ・障がいの当事者や障がいの子がいる保護者の方による生活での困りごと・やっていることなどを講話 		参加者 0名

(4) 第1回 よみたん〇〇会議

「よみたん〇〇会議」は、読谷村で起こっている「困り事」に立ち向かっている方々の声をあげることから始まります。まずは、村で起きている事実に向き合い、参加者で共有していくことを目的としています。また、対話を持ってテーマを解きほぐしながら、地域の「困り事」を「社会課題」へ、「他人事」から「自分ゴト」に変えていきます。テーマに関心のある方は、誰でも参加できるオープンな会議です。

テーマ：「障がい」ってなんだろう			
日時	令和5年3月4日	場所	読谷村総合福祉センターホール
【対象】	読谷村に在住・在勤の方及び、本テーマに関心のある方 ※村外の方も参加可		
【内容】	知っているようで知らない「障がい」のことを、当事者の方々から障がいがあることでの「困り事」や障がいがあってもできることなどをそれぞれの立場から講話。		
【着席者】	電動車いすユーザー：宮城 幸春 氏	車いすユーザー：渡慶次 憲路 氏	参加者 19名
	デベロップメンタル：吉田 和史 氏	ペアレント：安室 由美子 氏	
【ファシリテーター】	一般社団法人 虹のねっこ 大山 望 氏		

7. ボランティア活動支援の推進

ボランティア活動を通して住みよい地域づくりを目指している地域ボランティアの活動を支援するために、活動資金の助成及び読谷村ボランティア団体連絡協議会との連携を図り、ボランティア活動への住民参加を広く推進した。

(1) ボランティア団体

ゆいまーる共生事業(23 団体)	ユンタンザ歌の会	更生保護女性会
調理ボランティア (9グループ)	手話サークル「ゆんたんじゃ」	家庭倫理の会読谷支部
配達ボランティア	手話サークル「花織」	リディングサービス「ともしび」
読谷村赤十字奉仕団	介助ボランティア「心嘉野会」	要約筆記サークル「ほまえみ」

(2) ボランティア保険の加入促進 (加入20件 359名)

(3) ボランティアコーディネーター活動 ◎相談内容による分類件数 (合計95件)

相談内容	件数	相談内容	件数
ボランティア希望に関する事	8件	職場体験に関する事	0件
ボランティア派遣に関する事	11件	学校との福祉教育に関する事	17件
福祉団体・ボランティア団体に関する事	23件	清掃相談・実施に関する事	4件
読谷村ボランティア団体連絡協議会に関する事	12件	ボランティア活動保険案内・受付	20件

(4) 読谷村ボランティア団体連絡協議会への支援

令和4年度 12回/年	●会議 読谷村ボランティア団体連絡協議会の会議参加	読谷村総合福祉センター
----------------	------------------------------	-------------

(5) 街頭募金等への協力

学生ボランティアや民生委員児童委員のご協力のもと、村内の大型スーパー等で「赤い羽根共同募金運動」の街頭募金運動へ協力をした。

場所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店、マックスバリュ座喜味店

日時 12月5日(日) 13:00~18:00 ボランティア18名

12月19日(日) 13:00~18:00 ボランティア23名

(6) ゆいまーる共生事業の支援

公民館を拠点に実施されているゆいまーる共生事業へ活動助成金を交付してきたが、令和4年度より活動助成金を廃止としレク用品を購入した。レク用品貸出に向け準備をし地域におけるゆいまーる活動の充実を支援する。

8. 在宅福祉サービス事業

住み慣れた地域で安心して生活できるようきめ細やかな在宅福祉サービス事業が求められている中、地域住民相互の理解と支え合いの福祉活動を推進した。

(1) 食事サービス事業

週1回行っている「食事サービス事業」は、地域の調理ボランティアと配達ボランティアの方々の深いご理解とご協力を受けて利用者の安否確認を行うことを目的に実施しているが、令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策として密を避けるため、調理を休止とし弁当の外部発注を行い配達のための友愛訪問を実施した。

◎食事サービス利用状況

(令和5年3月現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均 利用人数	74	73	72	72	72	72	70	72	73	78	77	74	73人
延べ食数	295	292	358	287	287	288	281	289	293	310	307	372	3,659食
実施日数	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	5	50日

◎地域別利用状況(総件数 101件)

(令和5年3月現在)

地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数
喜名	6	上地	0	渡慶次	10	長浜	6	大湾	1	牧原	0
親志	0	波平	5	儀間	3	楚辺	5	古堅	6	長田	0
座喜味	3	都屋	5	宇座	4	渡具知	4	大木	8	大添	10
伊良皆	2	高志保	5	瀬名波	3	比謝	6	比謝砦	0	横田	1
										社協関係	8

9. 児童福祉活動事業の推進

(1) 子どもの居場所づくり支援事業

令和4年度より読谷村子どもの居場所づくり支援事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）をこども未来課より委託を受け、子どもの居場所づくりに取り組んだ。今年度は情報収集、地域との意見交換、ネットワークの結成やこども宅食事業、軽食配布、また子どもの居場所開所（午前中の居場所）などを行った。

◎こどもサポートネットよみたん

こどもの居場所、支援を行っている企業、団体、個人とネットワークの構築を行い、地域の子ども達が安心して過ごせる環境を作っていくために互いの良いところ、困り感の共有を行った。（加盟団体・企業・個人）

- 読谷村社会福祉協議会（事務局） ■ NPO法人 エンカレッジ ■ 70 KITCHEN
- 株式会社 ナチュラルブルー ■ レアーズ

◎こども宅食（令和4年11月～令和5年3月）

生活困窮世帯や一時的に支援が必要な世帯へ食の支援を行いながら必要な支援や相談機関へ繋げるアウトリーチ支援を行った。

- 2世帯5名 延べ数133食

◎こどもの居場所

ホッと安心できる居場所。子ども達が気軽に来れる居場所づくりを行った。

- 利用人数3名（午前中の支援） 延べ数26名

◎軽食配布（令和5年3月6日～3月31日）

地域の皆さんと一緒に軽食の配布を行いながら、食の提供・事業周知・地域における担い手の発掘や今後の活動展開を一緒に考えるきっかけづくり

	配布場所	配布数	延べ配布数
1	公民館（9カ所） 喜名、横田、波平、儀間、渡具知、比謝、大添、牧原、伊良皆	510食	800食
2	団地（2カ所）波平団地、比謝団地	90食	
3	みらい児童館	120食	
4	総合福祉センター（社協）	80食	

10.地域福祉ネットワーク事業の推進（村受託事業）

～ 地域における生活困窮者支援事業等のための共助基盤づくり事業 ～

地域住民・行政・社協が一体となって、個別ケースへの支援や地域の特性に応じた地域社会を基盤とした支え合う仕組みの構築を目指し、本事業を推進した。

（1）相談状況について

相談者や地域住民からあがった相談に対応し、相談内容にあった関係機関と連携しながら、問題解決を図り、相談者が人生の幸福感を感じられるようサポートを行った。また、個別支援会議を行ない、相談者の抱える生きづらさを関係者で共有し、一人ひとりが住みやすい環境づくりを支援した。

①新規・継続件数

	新規相談実数	継続相談実数	合計
相談対象者実数	79名	69名	148名

②相談形態別件数

	訪問	来所	電話	その他	合計
相談延べ件数	199件	113件	681件	87件	1,080件

③相談者内訳

相談者	件数
本人	545
家族	60
地域住民	36
民生委員児童委員	40
自治会・地域支え合い活動委員協力員	17
行政機関	183
高齢者サービス機関	22
障がい福祉サービス機関	16
福祉事務所	98
生活困窮者自立支援機関	20
医療機関	27
学校・教育機関	6
見守り協定事業者	5
その他	161
合計	1,236

③相談支援内容別件数(令和3年度よりシステム項目変更あり)

相談内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
子どもに関すること	—	4	13
障がいに関すること	—	10	33
就労に関すること	—	16	21
年金に関すること	—	3	7
介護・認知に関すること	79	5	80
依存症、精神疾患に関すること	—	7	49
病気、健康に関すること	94	68	277
住居に関すること	33	42	127
日常生活自立支援事業・成年後見制度に関すること	213	259	7
DV・虐待に関すること	1	1	10
ご近所トラブルに関すること	—	12	42
生活支援に関すること（見守り等）	120	75	143
ゴミ屋敷に関すること	—	1	20
ニート・ひきこもりに関すること	8	0	1
災害時要援護者に関すること	—	0	0
生活困窮に関すること	15	89	260
生活福祉資金に関すること	—	160	86
法外援護に関すること	19	15	0
専門相談（弁護士・司法書士等）	—	0	3
社協事業に関すること	20	2	0
その他	210	49	380
合 計	812	818	1,559

【嘉手納警察署・ニライ消防職員との連携強化】

関係機関との連携強化を目的に令和4年度に嘉手納警察署・ニライ消防職員とも情報共有の場を設けてそれぞれの立場、役割を確認し、対応できる範囲や協力できることなどを共有しあい、日々の支援に繋げることができている。

（2）相談員向け「金銭管理・家計相談に関する研修会の開催

新型コロナウイルス感染症や、物価高騰の影響から、生活困窮者世帯や障がい者・高齢者世帯からの「お金」に関する相談が増えている。その中で金銭管理方法や収支状況の整理等の相談支援に対応するため、村内の相談機関等を対象に勉強会を実施した。

◎日にち 令和5年3月17日（金） 参加者5名

(3) 暮らしのお金に関する相談会

新型コロナウイルス感染症により就労が出来ず収入が減少した世帯も多く、それに伴う支払いの滞納や借金返済に苦しむ方からの相談も多くなっている。借金債務、税金滞納、家計相談、就労に関する事など、相談者のお金に関する不安を少しでも減らせるよう専門相談員や社協職員によるワンストップ相談を行うことにより、これからの生活支援（寄り添い支援）につなげるため相談会を開催した。

◎日にち 11月25日（金）

協力機関 家計相談／家計改善相談員（パーソナルサポートセンター中部）
債務相談／弁護士（醇法律事務所）
税金相談／読谷村役場健康保険課
就労相談／一般社団法人うちなーからはーい
生活保護相談／読谷村役場福祉課
生活福祉資金貸付相談・特例貸付償還相談・生活相談／読谷村社協

(4) 地域支え合い推進事業（よみたん助け合い地域づくり事業）

生活に困っている世帯（食料品が足りない世帯や生活用品が無い、制服が買えない等）への支援事業として、地域住民や企業等へ食料品・生活用品提供の協力PRを行い、必要としている方々へ提供を行った。この活動を通して地域住民の支え合う意識の高揚と必要時に食料や生活用品を提供できる体制整備をしていくことを目的に実施した。

また、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により収入の低下により生活に困っている世帯へも物資の提供も継続して行った。

イベント型のフードバンク事業も実施し、児童生徒の食の確保のため、児童生徒がいる世帯向けに食料品の提供を行った。

【寄贈・募集】

募集媒体	チラシの配布・ポスター掲示・文書の配布・HP掲載・SNSの活用等
寄贈件数	197件
寄贈内容	米、カップ麺、缶詰、乾麺、調味料、野菜類、果物類、肉、魚、日用品、紙オムツ、粉ミルク、お菓子等
主な寄附者	村民、自治会、民生委員児童委員、赤十字奉仕団、更生保護女性会、村内企業、村外企業、特別栽培農産物認証工場・発展事業(中部圃場チーム)等、村内農業従事者

【募集方法】

- 各自治会、協力機関へポスターの掲示。
- SNS（LINE等）を活用し食料品、生活用品寄贈の呼びかけ。
- 食料品や生活用品、制服等学校用品寄贈の協力呼びかけ。
- 民生委員や自治会、企業、関係団体への声かけを行った。
- 社協だより等で村民への周知を図った。
- ひとり1品運動用のかごを社協入口に設置した。

【提供・支援】

- 食料困難者・生活用品の支援
 - ・社協への相談者、関係機関や相談支援機関からの食料支援・生活用品等の相談があった際、次の見通しがつくまでの間、緊急的な食料・生活用品の支援を行った。
- 必要な世帯へ届く取組として自治会や関係先に電話やFAXにて在庫状況の発信。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の低下による貸付の対象者や生活困窮者への食品や日用品の提供を行った。
- 物価高騰あおりを受け経済的に厳しい世帯へ食料品、日用品の提供を行った。
- 寄贈があった生鮮食品の鮮度が保たれるよう冷凍庫を活用し受け渡し可能な物品に幅ができた。
- 「生理の貧困」の対応として村内中・高等学校と連携し「ルナセット（生理用品）」を社協窓口や学校で受け取れる仕組み作りを継続して行った。
- 「ルナセット」の新たな受け取り可能窓口として村立図書館に協力頂き連携を行った。

■食材支援月別件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	95	77	82	83	74	54	41	38	29	22	32	48	675

■イベント型フードバンク内訳

令和5年3月30日～（毎週木曜日）

第1回目 『春休み・進級・進学応援企画』（9件）

■制服・学用品等

社協広報、行政や学校などの関係機関を通し必要な世帯への周知依頼を行う。気兼ねなく制服が受け取れるように別室を設けている。また、在庫、サイズがなく対応できない場合は、有料のリサイクルショップを案内して対応した。

■制服、学用品リユース活動利用者内訳（リユースとはまだ使える物を再利用すること）

幼稚園	小学校	読谷中	古堅中	読谷高校	その他
2世帯	8世帯	52世帯	17世帯	13世帯	9世帯

受渡件数： 合計 137点

体育着 (小学校)	体育着・ ジャージ (中学校)	上着 (セーラ)	スカート	上着 (シャツ)	ズボン	学ラン	式服	その他
4	15	26	35	16	19	9	3	10

※同じ種類を複数個受け取りの方あり 1世帯1カウントで集計

1 1 .生活支援体制整備事業の推進（村受託事業）

（1）地域支え合い体制づくり推進事業

住民同士の支え合い体制の構築に向けて民生委員児童委員との協働で地域支え合い体制づくりを実施した。要支援者の把握、見守り・声かけ活動の実施に向けて環境整備などを行い、村内への本事業の普及・啓発、活動意識の向上を目的に開催した。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により定期的な開催が難しい地域もあったが、顔が見えない状況だからこそ支え合いでの情報交換の時間が必要との声もあり内容や持ち方などを工夫し開催した。24の地域で地域支え合い活動委員会が始動したが、今後は継続した活動になるよう展開し地域支え合い活動の理解者を増やす事が課題だと感じる。

◇地域支え合い体制づくり会議・活動実施状況

（令和5年3月現在）

	地域名	支え合い体制づくり関係者	対象者数	実施回数
1	長浜地域	自治会長、民生委員、地域協力員、福祉課	8名	11回
2	渡慶次地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課、瀬名波駐在所	21名	2回
3	宇座地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	18名	8回
4	瀬名波地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域代表、福祉課	39名	9回
5	儀間地域	自治会長、公民館職員、民生委員、老人会長、ゆいまーる会長、福祉課	5名	6回
6	高志保地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	10名	12回
7	波平地域	自治会長、民生委員、老人会長、ゆいまーる会長、地域協力員、村議、福祉課	20名	11回
8	上地地域	自治会長、民生委員、福祉課	3名	10回
9	都屋地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、ゆいまーる会長、福祉課	14名	3回
10	横田地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	10名	10回
11	大添地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	25名	11回
12	大木地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	15名	3回
13	伊良皆地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	19名	9回
14	牧原地域	自治会長、民生委員、福祉課 ※2地域合同開催	5名	8回
15	長田地域			
16	渡具知地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	14名	11回
17	古堅地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	19名	1回

18	大湾地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課 ※2地域合同開催	10名	5回
19	比謝砦地域			
20	比謝地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	16名	10回
21	楚辺地域	自治会長、民生委員、福祉課、楚辺駐在所	10名	9回
22	喜名地域	自治会長、公民館職員、民生委員	13名	10回
23	親志地域	自治会長、民生委員、福祉課	24名	2回
24	座喜味地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	16名	11回

(2) 生活支援体制整備 協議体

普段の生活や支え合い活動を実施していく中で出てきた地域の「困りごとの解決」に向けて地域が主体となり、今地域でおこなっている活動や無理なく今できる活動などを皆で情報を共有し解決策を出し合い「助け合い・支え合いの仕組みづくり」をし、また将来に向けて「自分たちの住む地域をどのような地域にしたいか」などを話し合うことを目的に実施した。

■ 第2層協議体（中圏域）

【第1回】

日時	地域支え合い活動委員会	参加者
6月9日（木）14時～	読谷中学校区地域支え合い活動委員会	2名
	古堅中学校区地域支え合い活動委員会	3名
<p>【参加者】 村内で居場所づくりについて興味を持ってくれた方 【内 容】 村内の『居場所・行き場所づくり』について情報交換 ・地域の公民館で出来る拠点づくり ・今後地域で出来そうな事 ・社協としての役割</p>		

【第2回】

日時	地域支え合い活動委員会	参加者
令和5年3月9日（木）14時～	読谷・古堅中学校区地域支え合い活動委員会	4名
<p>【参加者】 見守り協定締結事業所 【内 容】 地域支え合い推進事業 読谷村の地域見守り活動のスムーズな連携に向けて ・見守り協定の確認 ・連携活動事例の紹介 ・社協としての役割</p>		

■ 第 3 層協議体（小圏域）

【第 1 回】

日 時	地域支え合い活動委員会	参加者
6月24日（金）15時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	2名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	2名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	2名
<p>【参加者】各自治会長、地域包括支援センター職員</p> <p>【内 容】『令和4年度 各地域の支え合い活動委員会の充実のために』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度のSOSネットワークの報告と今後の展開について ・地域の困りごとについて <p>自治会長が一番の協力者である公民館職員と支え合い活動委員会の重要性について共通の理解をしてもらい、地域の相談を最も受けている公民館職員から、地域の困りごとを出していただき、共有する事を目的の実施。</p>		

【第 2 回】

日 時	地域支え合い活動委員会	参加者
11月2日（水）13時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	5名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	6名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	5名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	6名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	6名
<p>【参加者】各自治会長、各地域支え合い委員会委員、地域包括支援センター職員、こども未来課、第1回第2層協議体参加者</p> <p>【内 容】『令和4年度 各地域支え合い活動委員会の充実のために』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『子どもの居場所』（役割について） ・沖縄県内『子どもの居場所』事例紹介 ・読谷村内『子どもの居場所』事例紹介 <p>村内24の地域で地域支え合い活動委員会を開催する中で、子ども達の取り巻く環境が複雑化してきている現状があり支え合づらさが出てきている。また、子どもたちの顔が見えづらい状況もある事が課題の一つになっており、今回、更なる支え合い活動の充実を図るため、地域の「子どもの居場所」作りについて知り、その役割を考える事を目的とする</p>		

【第3回】

日 時	地域支え合い活動委員会	参加者
11月18日(金)14時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	1名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	1名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	8名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	地域づくりに興味がある方	16名
<p>【参加者】各自治会長、各地域支え合い委員会委員、地域包括支援センター職員、地域づくりに興味がある方</p> <p>【内 容】『令和4年度 各地域支え合い活動委員会の充実のために』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『新しい・オモシロい・ななめ45度からの地域づくり』 ～ボードゲームやアプリを利用した地域住民参加型の地域づくりの取り組み～ <p>村内24の地域で地域支え合い活動委員会を開催する中で、従来の地域づくりでは立ち行かないところも出てきた。新しい取り組みとしてボードゲームやアプリを活用した住民参加型の地域づくりを行っている地域を紹介し新たな視点の提案を目的とする。</p>		

【第4回】

日 時	地域支え合い活動委員会	参加者
令和5年2月10日(金)14時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	5名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	7名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	5名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	6名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	6名
<p>【参加者】各自治会長、各地域支え合い委員会委員、地域包括支援センター職員、</p> <p>【内 容】『令和4年度 各地域支え合い活動委員会の充実のために』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い活動委員会について ・講話：「住み慣れた読谷村でいつまでも元気で暮らし続けるために」 ・読谷村の現状（数字から見える読谷村の現状・読谷村の介護予防事業） ・グループワーク（ご近所同士や新しい仲間づくりと取り組みそうなアイデア出し） <p>読谷村内24地域の支え合い活動委員会が発足し、各地域で活動の充実を目指している中で、第4回の協議体では読谷村の現状を知り健康寿命の大切さや、周囲（ご近所・地域）との平時からの関係づくりの大切さを再確認し、誰もが自分の住む場所で安心して出来るだけ長く生活していくことを考える事を目的とする。</p>		

(3) 読谷村地域支え合い推進事業活動報告

広報誌「支え合いよみたん」の発刊

核家族化や独居世帯の増加等の家族形態の変化、人間関係の希薄化が叫ばれているなか、新型コロナウイルス感染症でより人との繋がりにくい状況があり、支援が必要な方を専門職だけで支えていく事が難しい現状があり、地域住民同士の支え合いが更に必要である。

読谷村内では地域支え合い推進事業が展開されており、24 地域において委員会が発足し、委員会活動を継続して展開している。

読谷村でも希薄化が進む今だからこそ、『支えられたり、支えたり』のお互い様の顔の見える関係づくりを日頃からのおこなえる様に支え合い活動委員会の充実の為に取り組んできたことを『支え合い よみたん』を発行し“支え合える互い様の地域”の機運作りの地域づくりを考えるきっかけになることも目的とする。

(4) 読谷村地域支え合い推進事業 地域見守りあいさつ運動

小中学校児童生徒の徒歩登下校、またその他の時間の防犯対策を推進し地域でのつながり、見守り合いの関係で安心安全な地域づくりを行うことを目的とし、また高齢者・障がいのある方等の地域貢献活動、役割づくりとすることも目的に行った。

【ながらパトロール隊】

- 事業に賛同頂ける方へ速やかに渡せるように希望地域には、ベストを渡した。
- 登下校時や朝夕に自宅または通学路でベストを着用して、あいさつや声かけを行った。
- 学校とも連携し、互いに見守りあう関係の構築を図った。

新型コロナの影響で活動の自粛もあり積極的に活動を周知する機会が持てず、活動者を増やす事が出来ず、周知が進まない中で「ながらパトロール隊」として活動しやすい環境づくりが必要と考える。

12. 福祉団体・施設の連携推進

(1) よみたん福祉団体施設連絡会

村内の福祉団体、社会福祉施設、児童福祉施設が福祉関係者相互の連携と交流及び組織の充実強化を図り、ハンディーを持っている人も持っていない人も「共に生きていく地域づくり」の推進を目的として福祉運動会や福祉納涼まつりを予定していたが、新型コロナの影響により実施できなかった。

13. 福祉資金貸付事業の推進（県社協受託事業）

（1）生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

低所得者、障がい者または高齢者世帯に対し資金の貸し付けと必要な相談支援を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進を行い、安定した生活を送れるように支援した。

◎貸付相談（相談件数 284 件／貸付申請件数 4 件／貸付決定件数 4 件）

◎貸付決定金額 3,582,000円

生活 福祉資金	資金内容	相談件数	貸付件数	貸付決定金額
	福祉費・教育支援資金	55 件	3 件	3,482,000円
	総合支援資金	10 件	0 件	0円
	緊急小口資金	22 件	1 件	100,000円
	不動産担保型生活資金	11 件	0 件	0円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0円
	生活復興支援資金	0 件	0 件	0円
償還に関すること		127 件		
該当なし		59 件		
合 計		284 件	4 件	3,582,000円

【令和 3 年度】相談件数：130 件 貸付件数：4 件 貸付決定金額：2,199,500 円

【令和 2 年度】相談件数：140 件 貸付件数：10 件 貸付決定金額：2,886,000 円

（2）生活福祉資金特例貸付【令和 4 年 9 月末で終了】

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて収入減少や失業等により生活困窮となっている世帯への特例貸付を行った。貸付を行うことにより、一時的に生活に困窮している世帯の経済的自立や安定した生活が送れるよう支援した。

また、令和 5 年 1 月から貸付の償還開始となっており、償還免除対象世帯への手続き案内や、償還困難な世帯への償還猶予、減額相談を行った。

◎貸付決定金額 73,410,000円

◎期間 令和 4 年 4 月 1 日～令和 4 年 9 月 30 日

生活 福祉資金 特例貸付	資金内容	貸付件数	貸付決定金額
	緊急小口資金	101	19,950,000円
	総合支援資金（初回）	98	53,460,000円
合 計		199	73,410,000円

【令和 3 年度】貸付決定金額：482,710,000円

◎償還免除件数 885件

◎期間 令和4年6月～令和5年3月

特例貸付 償還免除	資金内容	免除件数	免除決定金額
	緊急小口資金	489	93,791,670円
	総合支援資金（初回）	396	217,223,000円
合 計		885	311,014,670円

◎償還猶予申請件数 77件

◎期間 令和4年12月～令和5年3月

特例貸付 償還猶予	資金内容	猶予申請件数
	緊急小口資金	40
	総合支援資金（初回）	37
合 計		77

（3）生活福祉資金償還指導

生活福祉資金は低所得者、障がい者または高齢者世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。今年度は特例貸付業務と新型コロナウイルス感染症拡大予防等の理由により実施していない。

（4）読谷村民生金庫貸付事業

民生金庫は生活困窮世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。償還相談については、今年度特例貸付業務と新型コロナウイルス感染症拡大予防等の理由により実施していない。

14. 法外援護事業

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに、歳末たすけあい募金運動を12月に展開した。歳末たすけあい募金運動で集められた浄財を「歳末たすけあい義援金」として、令和4年12月23日に村内の支援を必要とする世帯へ配分した。

配分の際に、自治会や民生委員が訪問を行うことにより、見守りや地域とのつながり、孤立防止につなげる事ができた。

◎配分金額：2,225,000円

◎配分世帯数：175世帯

	一人暮らし 老人世帯	ねたきり 老人世帯	心身障害者 世帯	長期療養者 世帯	母子・父子 世帯	多子世帯	その他 困窮世帯	合 計
自治会	27	4	19	8	6	1	19	84
民生委員	11	0	4	5	32	2	5	59

福祉課	1	0	0	0	0	0	0	1
こども未来課	0	0	1	1	11	1	0	14
社協	0	0	4	1	2	0	10	17
合計	39	4	28	15	51	4	34	175

【令和3年度】配分金額：2,305,000円

配分世帯数：186世帯

15. その他の活動事業

(1) 福祉バスの貸出

福祉バスの貸出は、役場からの新しいバスの貸与により12月から再開した。

◎貸出回数：16回

利用団体名	回数	利用団体名	回数	利用団体名	回数
ゆいまーる共生事業団体	5	民児協活動	2	社協関係	0
福祉団体	5	福祉施設	0	役場関係	0
ボランティア団体	1	村内学校関係	3	その他	0
読谷村老人クラブ連合会	0	村内自治会	0		

(2) 福祉車両（リフト機能付き軽自動車）貸出事業

読谷村に在住し、高齢や障がい、疾病等で福祉車両でなければ外出が難しい方を対象に、病院や公共機関への送迎、リフレッシュなどの社会参加の推進を図るために実施した。コロナの影響が落ち着いてきた9月以降から利用者数が増え、月平均、延べ利用回数も前年度より上回った。今後も多くの村民に利用して頂くため、社協だよりやチラシ等で周知を行う。

【利用実績】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	10	8	8	9	8	14	12	15	16	12	10	11	133

【令和3年度】利用回数69回（前年比+64）

【利用状況】

◇利用者数33名 ※令和3年度（21名）

◇月平均11.08回 ※令和3年度（5.75回）

(3) 村内学校事業所等会議への参加

① 読谷中学校・古堅中学校生徒指導連絡協議会への参加

各中学校区の連絡協議会へ参加し、関係機関との情報共有を図った。

参加することでそれぞれの専門性、役割を理解し、連携した支援に繋がった。

【読谷中学校】 定例会（年3回） 会場：読谷中学校 ※年5回を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため3回の開催
参加者：各学校長及び教頭（渡慶次小、読谷小、喜名小、読谷高、嘉手納高、読谷中）、 村教育委員会、嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、青少年指導員、 民生委員児童委員、各自治会、その他（更生保護女性会等）
【古堅中学校】 定例会（年5回） 会場：古堅中学校
参加者：各学校長及び教頭（古堅小、古堅南小、読谷高、嘉手納高、古堅中）、村教育委員会、 嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、保護司、民生委員児童委員、各自治会、 更生保護女性会

② 運営推進会議への参加

運営推進会議とは地域密着型サービス事業所が利用者、利用者の家族、地域住民の方々に対し、提供できるサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスの提供を行なうことを目的としている。参加を予定していたが、新型コロナ感染症拡大予防のため予定されていた会議の中止が多くあった。開催できた会議以外は事業所の活動報告を書面にて受けた。

施設名	対面会議	書面報告
ライフケア読谷	回	4回
ライフケア古堅	回	5回
グループホームきらめきとぐち	回	6回

③ 地域ケア会議への参加

地域ケア会議とは、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時に進めていく地域包括ケアシステムの充実に向けた手法であり、個々の高齢者の課題把握、解決を推進するネットワークの構築や多職種専門チームによるケアマネジメントを支援する事を目的とした会議である。

■ 会議実施回数：4回（新規事例3回、総括1回）

	日付	会議方式	社協参加
第1回	令和4年6月27日	対面会議	SC（生活支援コーディネーター）
第2回	令和4年6月27日	対面会議	SC（生活支援コーディネーター）
第3回	令和4年9月28日	書面会議	SC（生活支援コーディネーター）
総括	令和5年1月20日	オンライン及び対面会議	CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

(4) 職場・就業体験学習受入状況 ※新型コロナの影響により中止

6月と7月に村内中学校及び村内出身者が通う県立高校より職場体験学習生の受け入れを予定していたが、新型コロナの影響により中止となった。

16. 読谷村総合福祉センターの運営

(1) 総合福祉センター利用状況

総合福祉センターは、本村の福祉活動の拠点であるとともに、福祉団体による活動、村老人クラブ連合会の生きがいサークル活動（男性舞踊・大正琴・レク・女性舞踊・古典音楽・カラオケ）や手話サークルをはじめとする文化活動・研修活動・福利厚生利用の会場として広く村民及び各種団体に利用されており、地域福祉を推進する場所として活用されている。

	社協	民協	老人クラブ	福祉施設	福祉団体	役場	ボランティア	経済団体	芸能関係	その他	(利用回数)	合計
ホール	85	43	28	0	31	44	15	0	8	9		263
中研修室	0	0	23	0	5	8	0	0	14	17		67
老人憩いの室	21	14	142	0	17	13	64	0	35	14		320
団体室	1	19	0	0	97	5	22	0	0	2		146
ボランティア室	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0		6
会議室	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0		5
合計 (利用回数)	112	78	193	0	150	70	105	0	57	42		807

17. 読谷村生き生き健康センター運営

読谷村から指定管理を受けている読谷村生き生き健康センターは、乳児一般健診や一般介護予防の会場として利用された。

令和 4 年度 生き生き健康センターホール利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
1歳6ヶ月健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
2歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
乳児一般健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
がんじゅう広場	3	4	4	4	5	4	4	4	4	3	4	1	44
わんからデｲｰビス	4	5	4	4	5	4	4	5	4	3	4	4	50
合 計	11	13	12	12	14	12	12	13	12	10	12	9	142

18. よみたん社協共同販売センター収益事業

昭和 58 年 8 月に開所した読谷村共同販売センターは、令和 2 年 8 月 31 日をもち国道 58 号沿い施設を閉店し、同年 10 月より読谷村総合福祉センター内に店舗を移転し収益事業を継続してきた。

しかし、経営改善のため経営体制を見直すことに取り組んできたが、地域福祉向上のため還元を目的とした収益事業の改善には至らなかった。

また、運営体制においても専属職員を雇用することが難しく、平日は事務所職員で対応してきたが、業務に負担が生じてきたことから現状の体制を継続していく事は難しい状況となり、令和 4 年 9 月 30 日をもちまして読谷村総合福祉センターで運営してきた「よみたん社協共同販売センター販売店」を閉店することになった。

その他、村の伝統工芸の振興と福祉の推進を目的とし開催される読谷やちむん市へは事務局として毎年協力をしており「第 30 回読谷やちむん市」は、4 年ぶりに一堂に会して開催をした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(前年度)
営業日	22	25	24	25	22	22	—	—	—	—	—	—	140	(234)
来客数	103	124	145	155	188	187	—	—	—	—	—	—	902	(1,583)
ふるさと納税件数	3	8	14	8	9	11	9	2	0	1	0	0	65	(220)

19. 沖縄県共同募金会 読谷村共同募金委員会への協力

(1) 赤い羽根共同募金運動への協力

地域福祉活動をはじめとする福祉事業推進の財源として赤い羽根共同募金は毎年10月1日から3月31日まで全国一斉に展開されている。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により募金活動の実施にあたっては、共同募金会の示したガイドラインに基づき感染対策を講じながら、活動を行った。

コロナ禍においても村民をはじめ、多くの職域、学校、村内外事業所等のご理解とご協力をいただき下記の通り実績を収めることができた。

目標額4,908,000円 募金実績額5,643,107円 (達成率114.9%)

①戸別募金 37件 2,174,100円

喜名	140,500円	高志保	171,000円	渡具知	93,500円	牧原	21,500円
親志	25,500円	渡慶次	102,500円	比謝	37,000円	大添	42,600円
座喜味	200,000円	儀間	82,000円	大湾	68,000円	横田	49,500円
伊良皆	80,000円	宇座	120,500円	古堅	79,000円	比謝団地	10,000円
上地	10,000円	瀬名波	80,000円	大木	97,500円	窓口納付	2,500円
波平	204,500円	長浜	105,000円	比謝砦	8,500円		
都屋	60,000円	楚辺	269,000円	長田	14,000円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②法人事業所募金	98件	1,049,450円	⑦団体募金・募金箱	14件	333,313円
③個人事業所募金	58件	344,000円	⑧街頭募金	4件	430,254円
④職域募金	71件	653,883円	⑨県医師会他	6件	175,936円
⑤児童生徒募金	11件	412,495円	合計	313件	5,643,107円
⑥個人募金	14件	69,676円			

【令和3年度】目標額：4,849,000円 募金実績額：5,191,402円 (達成率：107.1%)

【令和2年度】目標額：4,849,000円 募金実績額：4,863,350円 (達成率：100.3%)

■ 赤い羽根共同募金街頭募金運動の実施

- ① 実施日 11月27日(日)
 場 所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店
 奉仕者 学生ボランティア及び民生委員児童委員
- ② 実施日 12月18日(日)
 場 所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ座喜味店
 奉仕者 学生ボランティア及び民生委員児童委員

(2) 歳末たすけあい募金運動への協力

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに歳末たすけあい募金運動(期間:12月1日~31日)を展開した。村民や募金奉仕員、民生委員児童委員等の関係機関・団体および村内外事業所の協力のもと多額の善意が寄せられた。

目 標 額 2,500,000円 募金実績額 2,010,683円 (達成率 80.4%)

①戸別募金 31件 879,896円

喜 名	56,800円	高志保	70,400円	渡具知	37,400円	牧 原	8,800円
親 志	10,200円	渡慶次	41,200円	比 謝	14,800円	大 添	17,200円
座喜味	80,600円	儀 間	29,000円	大 湾	27,400円	横 田	20,800円
伊良皆	36,500円	宇 座	48,200円	古 堅	34,000円	県営比謝団地	14,000円
上 地	5,000円	瀬名波	32,200円	大 木	39,000円	窓口納付	200円
波 平	86,600円	長 浜	42,000円	比謝砦	4,796円		
都 屋	27,000円	楚 辺	90,200円	長 田	5,600円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②事業所募金	4件	253,203円	⑤個人募金	11件	109,661円
③職域募金	67件	505,408円	⑥イベント募金	0件	0円
④団体募金	5件	262,515円	合 計	118件	2,010,683円

【令和3年度】目標額:2,500,000円 募金実績額:2,147,273円 (達成率:85.9%)

【令和2年度】目標額:2,500,000円 募金実績額:2,246,954円 (達成率:89.8%)

20. 介護保険事業等の充実

本会では居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問介護事業を実施した。

(1) 居宅介護支援事業・介護予防支援事業の実施

① 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の選択に基づき、保険医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効果的に提供されるように居宅介護支援を実施した。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ ケアプランの作成、見直し ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整
- ◎ 介護保険施設への紹介 ◎ 定期的な自宅訪問による状況把握

② 介護予防日常生活支援事業・総合事業

読谷村役場福祉課地域包括支援センター・嘉手納町地域包括支援センターより業務委託を受け、担当の保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等と連携を取りながら自立した生活を目指した支援を実施した。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ ケアプランの作成、見直し ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整

【利用実績比較】

令和3年度	新規（介護）	新規（予防）	利用者数	居宅介護支援員	令和4年度	新規（介護）	新規（予防）	利用者数	居宅介護支援員
令和3年4月	0	0	33	1	令和4年4月	0	0	36	1
5月	2	0	33	1	5月	2	0	38	1
6月	2	0	34	1	6月	1	0	38	1
7月	1	0	34	1	7月	1	0	39	1
8月	0	0	34	1	8月	1	0	40	1
9月	1	0	35	1	9月	0	0	41	1
10月	1	0	35	1	10月	1	0	41	1
11月	2	0	35	1	11月	0	0	39	1
12月	4	0	33	1	12月	0	0	39	1
令和4年1月	1	0	38	1	令和5年1月	2	0	39	1
2月	0	0	36	1	2月	0	0	39	1
3月	0	0	35	1	3月	0	0	40	1
合計	14	0	423	1	合計	8	0	469	1

【介護度別】

(令和5年3月末)

	利用者数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和3年度	423	0	12	0	90	175	54	62	30
令和4年度	469	0	12	0	119	145	66	91	36
増減 (B) - (A)	46	0	0	0	29	△30	12	29	6

居宅介護支援事業（ケアマネジャー）研修

NO	日付	研修内容
1	6月14日	中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 フレイル・サルコペニア予防講習会
2	6月22日 10月26日	中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 ファシリテーター養成講座（基礎編） ファシリテーター養成講座（応用編）
3	7月11日	沖縄県介護支援専門員協会 スキルアップ研修 災害時の業務継続計画（BCP）策定支援研修
4	8月19日 11月17日	第2回 読谷村ケアマネ情報交換会 第3回 読谷村ケアマネ情報交換会
5	7月30日	記載例で学ぶ居宅介護支援経過 事例編 ～講義とトーク・セッションで支援経過の記載を深化させよう～
6	8月24日	令和4年度 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 入退院支援多職種研修会
7	9月8日	沖縄県社会福祉協議会・沖縄県福祉サービス運営適正化委員会 福祉サービスに関する苦情解決セミナー
8	12月1日	令和4年度 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 事例を通して学ぶ看取り支援の大切なこと ～患者・利用者の思いに家族と共に多職種で寄り添う～

③ コロナ禍における事業の変化

【利用者・家族状況】

- ・新型コロナウイルス感染症による地域行事の自粛や老人会活動などへの外出機会が減り、身体機能の低下や認知機能低下の相談が多かった。
- ・ショートステイ事業所が感染症まん延予防のため事業中止があり、ショートステイが利用できず介護者の負担増があった。
- ・入院となった場合、家族の面会も制限され寂しい思いをされている相談があった。
- ・看取りの場面でも同様に、残された時間を家族と一緒に過ごせるよう在宅療養を選択されるケースが増加した。

【居宅介護支援状況】

- ・外出の機会や地域参加の機会が激減し、心身機能の低下・認知機能の低下により新規介護保険利用相談や介護度区分変更相談が増えた。
- ・介護保険新規申請者が増加したことで、地域の介護支援専門員数が不足し介護支援専門員を探すのに苦労していると医療機関相談員や地域包括支援センター、利用者その家族から不安の声が聞かれた。
- ・「新型コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所の人員基準等の臨時的な取扱いについて」等の厚労省より準用された内容を把握し、適切な対応に取り組んだ。
- ・更新申請においては、新型コロナウイルス感染症への対応に係る要介護認定の臨時的な取扱い適応の利用者が8割以上を占めた。
- ・ZOOM等を活用したオンライン研修や会議が増えた。

(2) 通所介護事業・介護予防・日常生活支援総合事業の実施

通所介護事業及び介護予防・日常生活支援事業については、利用者の在宅生活の支援、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上、介護家族の身体的、精神的負担の軽減を、社会福祉の基本理念のもと可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援することをサービス提供の目標としている。

令和4年度の利用延べ人数は合計で6,129人、対前年度比較で612人増となった。最も多い月が3月で642人、1日当たり24人、最も少ない月は1月で410人、1日当たり21人となった。平均要介護度は前年度2.0、今年度は支援が増えた為1.8となっている。

また、職員、利用者に新型コロナ感染が発生したことから、感染拡大防止の為、1月11日から14日までの4日間、事業を停止した。

契約状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度(A)	33	34	33	32	33	32	34	29	33	29	28	30	380
令和4年度(B)	37	37	37	39	40	40	43	48	48	51	54	52	526
増減(B)-(A)	4	3	4	7	7	8	9	19	15	22	26	22	146

単位 (人)

	新規	解約	解約内訳				
			入所	入院	他事業所 利用	その他	死去
令和3年度(A)	12	12	2	4	1	1	4
令和4年度(B)	30	9	3	1	1	0	4
増減(B)-(A)	18	△3	1	△3	0	△1	0

① 通所介護事業 (デイサービス)

通所介護事業を実施した。

延べ利用者数 5,578 人、一日平均利用者数 18 人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操、運動機能向上訓練、誕生会、ミニドライブ、クリスマス会等

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業を実施しました。

延べ利用者数 551 人、一日平均利用者数 2 人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操 運動機能向上訓練、誕生会、ミニドライブ、クリスマス会等

職員体制

単位 (人)

実人数	常勤		非常勤		常勤換算	備考
	専従	兼務	専従	兼務		
生活相談員	0	2	0	0	1.2	
看護職員	0	1	0	1	0.4	
介護職員	4	3	1	0	5.0	
機能訓練指導員	0	1	0	1	0.1	
事務員	0	1	0	0	0.8	
その他の従業者	1	0	5	0	3.6	

※沖縄県介護サービス情報報告システムより

利用実績

単位 (人)

令和4年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和3年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	449	17	37	4月	524	20	33
5月	483	19	37	5月	504	19	34
6月	483	19	37	6月	505	19	33
7月	441	17	39	7月	502	19	32

8月	482	18	40	8月	502	19	33
9月	529	20	40	9月	528	20	32
10月	546	21	43	10月	476	18	34
11月	541	21	48	11月	463	18	29
12月	524	22	48	12月	454	19	33
1月	410	21	51	1月	382	16	29
2月	599	25	54	2月	254	14	28
3月	642	24	52	3月	423	16	30
合計	6,129	244	526	合計	5,517	218	380
平均	511	20	44	平均	460	18	32

介護度別

単位(人)

	運営日	利用延べ人数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和3年度(A)	302	5,517	6	57	236	1,365	2,555	1,098	200	0
令和4年度(B)	304	6,129	166	189	196	2,324	2,114	731	409	0
増減(B)-(A)	2	612	160	132	△40	959	△441	△367	209	0

年間行事

単位(人)

日付	行事	参加人数
令和4年4月	誕生日会	39
	ミニドライブ	15
5月	誕生日会	18
6月	ミニドライブ	15
7月	誕生日会	21
	運動会	45
8月	誕生日会	38
9月	誕生日会	17
10月	敬老会	53
	誕生会	24
11月	生け花交流(読高生)	22
	誕生日会	39

12月	生け花交流（読高生）	21
	クリスマス会・誕生日会	57
1月	誕生日会	22
	初詣	新型コロナ感染防止の為、中止（自粛）
2月	誕生日会	25
3月	誕生日会	20

（３）訪問介護事業・介護予防訪問介護事業の実施

要介護認定で要支援１・２と認定された方、日常生活で介助を必要とする要介護１～５と認定された方に対し、自立した日常生活及び生活の維持改善を図るため、利用者の立場に立ったサービスを提供した。

令和４年度の利用延べ人数は 7,150 人、対前年度比較で 1,406 人増となった。最も多い月が 3 月で 682 人、1 日当たり 22 人、最も少ない月は 5 月で 509 人、1 日当たり 16 人となった。平均要介護度は、前年度同様 2.1 となった。

対前年度延べ人数の増加は、嘉手納町の訪問介護事業所の閉鎖のため、嘉手納町の利用者の受け入れが多くなった。また、サービス提供責任者を 2 名から 4 名に増やし、新たに訪問介護員を採用（2 人）したことで新規契約の受け入れが可能となり、利用者の増に繋がった。

今年度においても、引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策（利用者の検温、感染防護のマスク・手袋等の着用、手洗い等の消毒処置、密閉解消の換気の奨励等）も講じて、サービスを提供した。

① 訪問介護事業

家事生活援助、身体介助等のサービスを実施しました。

延べ利用者数 5, 240 人、1 日平均利用者数 14 人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

通院等乗降介助：車輛までの移動・乗車の介助

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業サービスを実施しました。

延べ利用者数 1, 910 人、1 日平均利用者数 5 人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

職員体制（障がい福祉サービス兼務）

単位（人）

実人数	常勤		非常勤		常勤換算
	専従	兼務	専従	兼務	
訪問介護員等	0	4	0	14	5
うちサービス提供責任者	0	4	0	0	2
事務員	1	0	0	0	1
その他従業者	0	0	0	0	0

※沖縄県介護サービス情報報告システムより

利用実績

単位（人）

令和4年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和3年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	556	19	59	4月	373	12	40
5月	509	16	55	5月	346	11	40
6月	572	19	55	6月	407	14	48
7月	556	18	62	7月	449	14	50
8月	582	19	66	8月	468	15	52
9月	620	21	66	9月	503	17	54
10月	596	19	66	10月	500	16	54
11月	628	21	70	11月	565	19	55
12月	646	21	65	12月	555	18	55
1月	608	20	70	1月	501	16	52
2月	595	21	67	2月	513	18	54
3月	682	22	70	3月	564	18	58
合計	7,150	236	771	合計	5,744	188	612
平均	596	20	64	平均	479	16	51

介護区分別

単位（人）

	身体介護	身体生活	生活援助	乗降介助	訪問型独自
令和3年度(A)	2,186	513	1,433	52	1,560
令和4年度(B)	2,813	925	1,451	51	1,910
増減(B)-(A)	627	412	18	△1	350

介護度別		単位（人）							
	利用延べ 人数	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5
令和3年度 (A)	5,744	254	183	1,120	627	1,636	788	647	489
令和4年度 (B)	7,150	230	351	1,329	686	2,144	1,141	840	429
増減 (B) - (A)	1,406	△24	168	209	59	508	353	193	△60

2 1. 障害者総合支援法による障害福祉サービスの運営

障がいのある利用者が、自立した日常生活や地域で安心して暮らしていけるよう居宅介護、重度訪問介護、同行援護の訪問介護サービスを実施した。

障害福祉サービスは、感染防止対策に努め、利用者に対しサービスを提供した。

(1) 障害福祉サービス事業

- ①居宅介護 実利用者数 17 名 延べ利用者数 2,043 人
食事、排泄、入浴、清拭介助、調理、洗濯、清掃、通院等乗降介助
- ②重度訪問 実利用者数 1 名 延べ利用者数 232 人
重度の肢体不自由で常時介護を必要とする利用者に、居宅において入浴、排泄、食事等の介護サービスや調理、洗濯、清掃等その他の支援を行なう。
- ③同行援護 実利用者数 4 名 延べ利用者数 147 人
移動に著しい困難を有する利用者に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護等、外出に必要な援助を行う。

利用実績				単位（人）			
令和4年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和3年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	221	7	15	4月	196	7	16
5月	224	7	17	5月	191	6	16
6月	219	7	16	6月	224	7	16
7月	202	7	15	7月	261	8	19
8月	194	6	16	8月	270	9	21
9月	162	5	15	9月	286	10	20
10月	171	6	15	10月	263	8	20
11月	194	6	18	11月	276	9	22
12月	224	7	19	12月	243	8	19
1月	201	6	20	1月	213	7	17

2月	184	7	19	2月	202	7	17
3月	226	7	19	3月	249	8	17
合計	2,422	78	204	合計	2,874	94	220
平均	201	7	17	平均	240	8	18

区分別利用回数

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	合計
令和3年度(A)	2,500	191	183	2,874
令和4年度(B)	2,043	232	147	2,422
増減(B)-(A)	△457	41	△36	△452

(2) 地域生活支援事業（村受託事業）

① 読谷村移動支援事業

屋外での移動に困難のある利用者に、外出支援を行うことにより、地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的として実施した。

前年度までは、障がい福祉事業の利用者が多かったが、令和4年度は高齢者の利用も増えた。

利用状況

	新規	解約	延べ回数	利用者数合計	利用者数平均
令和3年度(A)	3	0	228	53	4
令和4年度(B)	4	0	200	76	6
増減(B)-(A)	1	0	△28	23	2

(3) 職員研修・講習会の実施

研修・講習会実績

単位(人)

NO	日付	研修内容	参加人数
1	4月18日	接遇に関する研修会	14
2	5月20日	身体拘束と虐待防止研修会(DVD研修)	12
3	6月14日	フレイル・サルコペニア予防の研修会	13
4	6月29日	地域生活支援拠点等整備の促進に関するPoint 管理者・サービス提供責任者参加	2
5	7月22日 ～28日	認知症のケア・せん妄のケア(個別DVD研修)	10

6	8月24日	入退院時におけるスムーズな連携体制には何が必要か？多職種で紡ぐ在宅生活（一般社団法人中部地区医師会 ZOOM）	9
7	9月18日	感染症予防及び発生時の対応基礎研修（ケース検討会）	8
8	10月20日	行動、心理症状（問題行動）はなぜ起こるのか？（フォローアップ研修）	10
9	11月24日	ボディメカニクス（移動・移乗動作）、福祉用具について（DVD研修）	13
10	12月1日	事例を通して学ぶ見取り支援の大切なこと～患者・利用者の思いに、家族と共に多職種で寄り添う～（一般社団法人中部地区医師会）	11
11	令和5年 2月14日	中部地区訪問介護事業所連絡会（ZOOM） 管理者参加	1
12	3月7日	応急手当講習会（講師 読谷ニライ消防本部）	11

2.2. 読谷村介護予防・日常生活支援総合事業（村受託事業）

閉じこもりがちな高齢者等に対し、集いの場を提供し、レクや野外活動、地域交流等を行うことで、社会的孤立間の解消及び自立した日常生活を営み、さらに地域とのつながりを築くことを目的に予防サービス（通所型サービスA）事業を実施した。

（1）わんからデイサービス

令和4年度の利用延べ人数は、526人、対前年度比較で7人増となった。

今年度は、デイサービス職員、利用者に新型コロナウイルス感染が発生したことから、1月17日に事業休止とした。

◎対象者 要支援認定者、事業対象者

◎日時 毎週火曜日 午前10時～午後3時

◎場所 よみたん生き生き健康センター2階

◎内容 高齢者の閉じこもり予防や自立支援に資する通所事業

・看護師による健康チェック ・食事の提供 ・レク、交流 ・運動 ・送迎

■サービス実施日数 50日 ■利用登録者数 15人

■延べ利用者数 526人（男性 196人、女性 330人）※令和3年度延べ利用者数 519人

■1日平均利用者数 10人

利用実績

単位（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度 (A)	33	38	45	42	48	18	48	62	46	50	31	58	519
令和4年度 (B)	43	57	48	46	50	34	46	57	47	29	36	33	526
増減 (B) - (A)	10	19	3	4	2	16	△2	△5	1	△21	5	△25	7